

# JICA モンゴル事務所ニュースレター 2016年2月号

## トップニュース

### 円借款「ウランバートル第4火力発電所効率化事業」に係るコントラクターが決定



硬い握手を交わすコントラクターと  
第4火力発電所社長

2013年11月のL/A調印から約2年3ヶ月。円借款「ウランバートル第4火力発電所効率化事業」(借款承諾額42.01億円)のコントラクターが決まり、2016年2月にウランバートルで署名式が開催されました。本事業では、モンゴル最大の発電所である第4火力発電所に対して、日本の横河電気(株)がタービン調速機と制御システムの更新を、日本の三菱日立パワーシステムズ(株)とモンゴルのMCSのJVがスーツプロア設置と微粉炭ローラの更新を図り、2018年11月の完工後の発電効率の向上を目指します。同発電所に対して、これまでJICAは様々な協力を実施してきており(1991~2007年にかけて3回の無償資金、2回の有償資金協力でタービン、ボイラーの改修、周辺機器の更新等を実施したほか、技術指導のため専門家2名、シニアボランティア20名を派遣)、今回の協力に関しても署名式に出席したモンゴル側関係者からは熱い期待の声がか寄せられました。

## 政治・経済動向

### 国政選挙が6月29日に実施決定

民主化後、第7回目となる国政選挙が本年6月29日に実施されることが決まりました。76議席(中選挙区48議席、比例代表28議席)をめぐる、6月初旬から選挙活動が本格化します。今回、国政選挙に合わせて、県議会議員選挙及びウランバートル市議会議員選挙も同時に実施されることとなっており、当該期間中、中央及び地方ともに選挙ムードに包まれる見込みです。現在、国会に35議席を有する与党民主党は、議会での過半数の議席獲得に向け、他党との連立も視野に入れた動きを活発化させており、今後事務所としては、各党の動向について注視していきます。

### 臨時国会、2月19日に開会するも、同日閉会

モンゴルの秋季国家大会議(国会)が2月5日に閉会しましたが、秋国会で審議予定だった法律案が多数残ったため、臨時国会が2月19日に開かれました。当初、2月15~26日の会期を予定していましたが、野党人民党が憲法裁判所長官の解任等の審議事項に反発し、二度に亘り開会日が延期されたほか、2月19日の開会日に人民党議員の多くが出席せず、結局、同日に閉会するという波乱の展開となりました。2016年6月の国勢選挙を控え、今後より一層、与野党の攻防が激しくなることが予想されます。

### その他の主要イベント、動向等

・2月12~14日 プレブスレン外相ミュンヘン安全保障会議出席

## JICA プロジェクトの動き

### JICA モンゴル事務所が「シルクロード賞」を受賞



授賞式での記念撮影(右:商工会議所  
長、右から2人目:佐藤所長)

JICA モンゴル事務所が2016年のシルクロード賞に輝きました。同賞は、モンゴル商工会議所が2007年から2年に一度開催している、モンゴルの社会経済の発展に最も貢献した国際機関、外国の政府機関・民間企業・個人を表彰する名誉ある賞で、今年は産業省推薦により、産業の多角化、中小企業育成におけるJICAの活動(日本センター、ツーステップローン等)が高く評価され、同賞受賞に至りました。なお、2014年には清水在モンゴル日本国大使が受賞しており、日本関係者の連続受賞は日本のプレゼンスを高める意味においても意義あるものと言えます。

### 技プロ「ウランバートル市マスタープラン計画・実施能力改善プロジェクト」でワークショップを開催



グループの討議結果を説明するWS参加者

技プロ「ウランバートル市マスタープラン(M/P)計画・実施能力改善プロジェクト」は、①M/Pの実施計画策定等を通じた計画策定能力と②都市再開発事業の実施促進等を通じた事業実施能力向上支援の2本柱で2014年10月から実施しています。2月3、5日には、①にかかる活動として、政策企画機能や自治体の計画体系の在り方等をテーマとしてウランバートル市職員を対象にしたワークショップ(WS)が開催され、JICA 専門家から日本の事例をレクチャーした上で、市の課題や改善の方向性について討議・提案がなされました。今後は、WSでの提案を踏まえつつ、市の組織体制や計画体系の在り方を市長への提言としてまとめる予定です。

## 「モンゴル・中央アジア・コーカサス-北海道民間連携基礎情報収集調査」によるセミナーの開催



当日のセミナーの様子

北海道とモンゴル・中央アジア・コーカサス地域の民間企業のマッチング可能性を分析し、民間ベースでの連携可能性・JICA スキームによる今後の支援展開について検討を行うとともに、将来的に北海道の民間企業の進出及び投資を推進するため、現在、標記調査を実施中です。その調査の一環で、気候的に類似性のある北海道の民間企業の技術、製品等を紹介するとともに、モンゴルの関係機関や企業との意見交換を目的として、1月22日にウランバートルで「モンゴル・北海道 民間連携促進セミナー」が開催され、北海道の民間企業4社から各社の製品・技術に関するプレゼンテーションが行われました(㈱IHI スター【牧草収穫機】、東洋農機㈱【ポテト収穫機】、岩田地崎建設㈱【再生可能エネルギーを利用した建築技術】、旭イノベックス㈱【温水パネルヒーター】)。昨年2月、日本とモンゴルの間で経済連携協定(EPA)の署名がなされ、モンゴルの民間企業の日本への関心が高まる中、当日はモンゴルの民間企業等約50社が参加し、活発な意見交換が行われました。

## 「消防機材及び維持修繕作業施設改善計画」フォローアップ協力に関する調査を実施



ミニッツ署名の様子

現在ウランバートル市で使用されている消防車全39台は、2003年と2013年に日本の無償資金協力により調達されたものです。2003年の「消防機材及び維持修繕作業施設改善計画」で調達された17台については12年が経過し、はしご車を含め複数の故障が発生していることから、フォローアップ(F/U)協力でスペアパーツ等を新たに供与することが計画されています。2016年1月にJICA本部から調査団が派遣され、供与すべきスペアパーツ等を調査し、国家非常事態庁(NEMA)とF/U協力実施にかかるミニッツに署名しました。本F/U協力が実施されれば、NEMAの適切な管理の下、より長く消防車両が使用され、ウランバートルの防災に貢献することが期待されます。

## エンジニアという夢に向かって！-「工学系高等教育支援事業」留学認定証明書の授与式-



教育大臣、日本国大使を囲む留学予定の学生

1月28日、円借款「工学系高等教育支援事業」の一環で、今春から日本の高専や大学院に留学する学生・教員を対象に、留学認定証明書授与式が開催されました。高専留学プログラムでは、2014年9月のプログラム入学から1年強の受験勉強を乗り切った24名の学生が留学への切符を手に入れました。彼らの大半は地方出身の学生です。覚えてたの日本語で、数学や物理、化学などを勉強するには、相当の努力が必要だったはずですが、その努力が実を結び、無事、留学試験に合格しました。授与式では、日本の仙台高専を卒業したガントゥムル教育大臣が学生一人ひとりと握手し、エールを送りました。単なる留学生ではなく、今後のモンゴルの工学技術発展を担うという重要なミッションを持って、彼らはこの春日本に飛び立ちます！

## ボランティア事業の動き

### ボランティア活動紹介 (ボランティア医療分科会「ソロンゴの会」)



看護師の現状と看護記録の付け方を発表する  
看護師学校の先生

ソロンゴの会は、保健医療分野のボランティア(計15名:理学療法士1名、看護師5名、保健師1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、公衆衛生1名、助産師1名)で構成する医療分科会です。同会では、定期会合等を通じてモンゴルの保健医療の現状や課題を共有し、日々のボランティア活動に役立てていますが、2016年1月26~27日には、同会の活動をより効果的なものにする為、初めてボランティア以外の保健医療関係者(保健省、看護師協会、一次及び二次レベル医療施設従事者のための卒後研修強化プロジェクトJICA専門家等22名)が参加する会合を開催しました。会合では、参加者からの事業紹介や意見交換等を通じて、今まで把握されていなかった保健医療の現状や課題が共有されたほか、それらを踏まえ、同会の年間活動計画が新たに策定されました。参加ボランティアにとっては、「様々な医療関係者と関係を築くことができ、これからの方針を確認できた。今後、配属先や医療関係者と協力して活動したい」(H26-1次隊/村野万伊加)等、今後同会がモンゴルの医療の質の向上に貢献して行くための大変良い機会になりました。

### その他のボランティア情報

・「JICA ボランティア世界日記」に築山憲一 JOCV(H26-4次隊/公衆衛生、配属先:ゴビアルタイ県保健局)

[http://world-diary.jica.go.jp/tsukiyama/activity/post\\_12.php](http://world-diary.jica.go.jp/tsukiyama/activity/post_12.php)



研修参加者の声 -帰国研修員同窓会ニュースレターより-



「日本の競争法・競争政策」コース集合写真

隔月毎に発行している帰国研修員同窓会ニュースレターでは、研修員の生の声が寄せられます。今回は 2016 年 2 月号の掲載記事の一部を紹介します。

——「日本の競争法・競争政策」コース参加者 U.Batzaya (副首相顧問)の感想——  
オユンバートル副首相の提案により、国会は 2016 年を“消費者保護年”として掲げた。そんな中、JICA が昨年末から競争法技プロを開始しており、その投入として実施された国別研修 (2016 年 1 月、JICA 東京)に参加することができた。研修の主な内容は、日本の私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律の歴史・特徴、不当な並行輸入、カルテル契約・企業間の提携の取り締まり強化等の紹介であった。特に、国際的な消費者保護の動向、顧客満足サービスの提供の必要性が参考になった。現在モンゴル国では、経済成長及び国民生活の向上に向けた多様な課題に取り組む必要が生じている。公正かつ自由な競争環境の整備を促進するために、非常に効果的で質の高い研修であり、感謝している。

■帰国研修員同窓会 URL (モンゴル語のみ) <http://www.jaam.mn/>

事務所ナショナルスタッフが日本語で執筆!

～モンゴルの文化・生活事情紹介～ 「ツァガンサル (お正月) に関する豆知識」

モンゴルのツァガンサル (お正月) は旧暦で祝うので今年は 2 月 9 日が猿年の元旦でした。今回はお正月に関する知っとく情報を一つ紹介します。お正月には家族や親戚が集まり、お年寄りから小さな子供まで全員が年始の挨拶を行います。しかし、その中にはお互いに挨拶をしてはいけない人もいます。それは夫婦同士です。モンゴルでは夫婦というのは心身とも一つの世界だと見なされているので挨拶はしません。それからもう一つ挨拶が出来ないのは妊婦同士です。昔から、挨拶をすれば赤ちゃんの性別が変わり、赤ちゃん同士の運命が変わってしまうと信じられ、現在も妊婦同士は挨拶をしない習慣が続いています。伝統的なしきたりと習慣で来る年の幸せを願うツァガンサルはモンゴル人にとって大切に大事な行事の一つです。(ツェギー所員)



ツァガンサル中に家庭で飾られる  
ヘウィーンボウ (揚げパン)。  
日本の鏡もちのようなもの。

コラム ～ウランバートルの大気汚染～ 第 2 回「ウェブサイトの情報の読み方」

UB 市及び首相府のウェブサイトでは、技プロ「UB 市大気汚染対策能力強化プロジェクト・フェーズ 2」の支援により UB 市内の大気汚染状況を公表しており (URL: <http://www.air.ub.gov.mn/>、<http://www.agaar.mn/>)、新たに地点別ページも用意されました (<http://www.air.ub.gov.mn/ja/lcd-menu-3.html>)。上記ウェブサイトでは各大気汚染物質の測定値を表示していますが、モンゴルの環境基準に従い汚染状況を色付けしています (緑: 環境基準の半分以下、黄色: 環境基準以下、橙色: 環境基準の 2.5 倍以下、桃色: 4 倍以下、茶色: 5 倍以下、赤色: 5 倍超過)。ただし、下表のとおりモンゴルと日本の環境基準は異なり、SO<sub>2</sub> や NO<sub>2</sub> は日本よりモンゴルの環境基準の方が厳しく設定されています。

環境基準の比較 (µg/m <sup>3</sup> )	SO <sub>2</sub>	NO <sub>2</sub>	CO		O <sub>3</sub>	PM <sub>10</sub>	PM <sub>2.5</sub>
	24 時間	24 時間	1 時間	8 時間	8 時間	24 時間	24 時間
モンゴル	20	40	30,000	----	100	100	50
日本	123	132	----	26,830	----	100	35

注 浮遊粒子状物質 (SPM) を PM<sub>10</sub> と見なしている等、本表では、便宜的な比較となっています。

次号では、UB 市内の大気汚染の特徴を時間帯や場所による数値の変化から解説予定です。



独立行政法人 国際協力機構 モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia  
(Central P.O.Box 682, Ulaanbaatar 211213, Mongolia)

Tel:+976-325939, 311329 Fax:+976-310845 E-mail: [mg\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:mg_oso_rep@jica.go.jp)